

令和2年度青少年活動交流センター事業評価表

区分	No.	事業名	目的	事業概要（期日、参加者、内容等）	事業評価								総合評価	今後の事業方針		
					必要性(30)			達成度(30)			効率性(30)				その他(10)	
					①必要性・優先度	②県民のニーズ	③代替可能性	①数値目標	②満足度	③周知・理解	①費用対効果	②計画どおりか				③負担はないか
全般的業務		センター利用者数	センターの管理運営「県民活動交流センター」入居施設等との連携 その他管理一般業務	センター利用者数 センターの利用者数:「団体活動室等利用者」、「いわて希望塾」、「いわて親子フェスティバル」、「相談件数」を合計したもの。												
(1)活動	1	① 青少年活動の場の提供・環境整備	青少年のニーズに合わせた活動場所を提供できるよう、掲示物等の空間環境とボランティアによる人的支援体制等を整備する。	青少年関係団体等の自主的な活動を側面から支援するため、団体活動室等の利用について、関係団体やNPO等に積極的に働きかけるとともに、利用者のニーズに合わせた活動、交流場所の提供及び情報交換に利用できる展示環境を提 <sup>※</sup> 期日:通年 内容:青少年健全育成関係団体を対象とするアイーナ内での事業展開場所の提供 ※緊急事態宣言の発令に伴い、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月21日(火)～5月6日(水)までの間、来所による利用を休止。また、団体活動室を管理するNPO活動交流センターでは、団体活動室(1、4)、6階ラウンジ(エレベーター前)の共有スペースは、テーブル、椅子を撤去または減らして運用。  コーディネート(1回:岩手県立盛岡第三高等学校生4名)	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	B(20) ①:0 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10				B(80)	オンライン化(非対面型の活動)の支援(パソコン、webカメラ等の情報発信器材等提供及び事業展開場所の提供を進めていくこととしたい。				
	2	② 青少年活動サポート事業  (1)「青少年ボランティアネットワークの構築」	いわて親子フェスティバル等のセンター事業へのボランティア参加者が、事業の企画段階から参画するとともに、相互に交流する機会を設けることにより、ボランティア活動の活発化を促進する。	いわて親子フェスティバルをはじめとするセンター事業へのボランティア参加者を募集。青少年ボランティアに対しては、事業を通じたボランティアに関する研修の実施や相互に交流する場を設けることなどにより、ネットワークの構築と活動の活発化を促進 期日:通年 内容:舘武が原祭(2名)、いわて親子フェスティバルのボランティア(87名)による企画会議(3回)及び実行委員会(2回)の開催など、事業を通じた研修や交流を行い、ボランティア相互のネットワーク形成の機会を設けた。 ・参加者:県内に在住する概ね16歳～30歳の青少年、登録ボランティア(87名) 延べ 327名	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	B(20) ①:0 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10			人件費を除く費用(26千円)	B(80)	継続して実施することとしたい。 引き続き、県内5大学、専門学生等に募集の働きかけを強めるとともに、ボランティア間の情報交流が進むようパソコン等環境の整備を進めていくこととしたい。				
	3	(2)いわて希望塾(計画変更)	震災からの復興が進む沿岸地域において、体験的活動や市町村の枠を越えた交流活動、「復興」「地域づくり」についての学びを行うことにより、震災を風化させることなく、積極的に岩手の「復興」や「地域づくり」を担おうとする、心豊かで意欲に満ちた人材を育成する。	例年実施の「いわて希望塾」は、2泊3日の日程で実施してきたところ。感染症拡大により、宿泊・交流事業は中止とし、岩手の良さや、将来の明るい未来について、考えを深めるきっかけとなるよう、番外編として「わたしの一押し・わたしが思う未来のいわて」つづやきを募集。  募集期間:令和2年10月20日(火)～12月10日(木) 応募者数:407点 内容:中学生が思う岩手の良いところ(わたしの一押し)や希望する岩手の姿(わたしが思う未来の岩手)について端的に表現したつづやき(50字以内)を募集し、選考委員会において優秀作品103点を選考。	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	B(20) ①:0 ②:10 ③:10	B(20) ①:10 ②:0 ③:10			人件費を除く費用(1,225千円)	(10) 作品応募者数:407名	B(80)	新型コロナウイルス感染症の感染動向などにより、宿泊・交流事業が実施できない場合は、端的に表現したつづやきを募集することとしたい。			
	4	青少年健全育成のための地域による情報メディア対応促進事業	青少年のインターネットやスマートフォン等の利用が増え、有害情報で被害を受けたり、ネット上の誹謗、中傷、いじめなど青少年の健全育成上様々な課題が生じていることから、情報機器の正しい利用について地域での主体的な取組を促進し、青少年の健全育成を推進する。	(1)情報メディア対応力養成講座(4地域) 沿岸地区(陸前高田市11/24)、県南地区(北上市12/3)、県央地区(盛岡市12/10) 県北地区(二戸市11/16)は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止 合計(3回)48名(オンライン配信:88回) (2)情報メディア「出前」講座(17回) ※2月末現在 小学校、中学校、高等学校、PTA、公民館等 延べ1,364名 (3)情報メディア対応機関連絡会議 最新のネット上の課題、相互の連携の在り方等についての協議・意見交換等を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、中止。	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	B(20) ①:0 ②:10 ③:10	B(20) ①:10 ②:0 ③:10			人件費を除く費用(2千円)	(10) オンライン配信	B(80)	継続して実施することとしたい。 有害情報から青少年を守るための啓発活動のほか、ニーズに対応した内容により実施していきたい。			

(中止)

区分	No.	事業名	目的	事業概要（期日、参加者、内容等）	事業評価				総合評価	今後の事業方針					
					必要性 (30)	達成度 (30)	効率性 (30)	その他 (10)							
					①必要性・優先度	②県民のニーズ	③代替可能性	①数値目標	②満足度	③周知・理解	①費用対効果	②計画どおりか	③負担はないか		
(2) 交流	5	①地域づくり促進事業  (1) いわて親子フェスティバル	青少年の健全な育成・成長に果たすべき第一義的な責任は、家庭・保護者であり、家庭における対話やふれあいが重要であることについて啓発するとともに、地域全体で子育てを行う機運を醸成する。	子育て、家庭教育、親子の対話等をテーマとする講演を中心とするセミナー及び親子や家族で楽しみ、ふれあいを深めるイベントを開催。  ※県民活動交流センターの協力を得て実施。 ・期日・会場：令和2年10月4日(日) ・参加者：3,239名(親子3,128名、協力団体・出演者24名、青少年ボランティア87名) ・内容：工作ショー、親子で遊ぼうコーナー、体験コーナー(一部コーナーを除き、事前予約制)  ※ 青少年ボランティアによる企画会議(3回)及び実行委員会(2回)の開催など事業を通じた研修や交流を行った。	A(30)	B(20)	A(30)							B(80)	新型コロナウイルス感染症の感染動向などにより、参加は事前の予約制とし、人数を制限するなど規模を縮小し、継続して実施する。
	6	(2) 子ども・若者支援セミナー 「社会生活に困難を有する子ども・若者支援セミナー」	社会生活を営む上での困難を有する青少年の現状や支援方法について、専門家による基調講演や関係団体代表等による事例検討会などを内容とする公開講座を開催し、今後における「子ども・若者支援」の推進に係る機運の醸成と県民への啓蒙を図る。	社会生活を営む上での困難を有する子ども・若者の現状や社会的背景及び支援方策について幅広く学習するとともに、専門家による4回の連続講座(講話及びグループワーク)を開催。  ・参加者：青少年育成団体、市町村青少年担当者、学校、幼保園関係者等合計(4回)232名 ※オンライン受講者含む ○第1回 9月27日(日) 参加者：54名(うち集合18名) 「発達障害とペアレントトレーニング」 社会福祉法人新生会 みちのく療育園診療部長 川村 みや子 氏 ○第2回 10月11日(日) 参加者：48名(うち集合16名) 「ペアレントトレーニング体験講座」 NPO法人「紫波さぷり」代表 細川 恵子 氏・臨床心理士 樋渡 朗子 氏 ○第3回 10月25日(日) 参加者：48名(うち集合16名) ○第4回 12月7日(月) 参加者：82名(うち集合31名) 「発達に特性のある子どもと家族が進化するプロセス」 岩手大学人文社会科学部人間文化課程教授 奥野 雅子 氏	A(30)	A(30)	A(30)							A(90)	オンラインによる参加・視聴(ライブ配信、録画配信等)の導入をさらに進め、継続して実施することとしたい。 実施に当たっては、機関相互の連携の強化を図る。
(3) 情報	7	青少年健全育成広報事業		青少年活動交流センターにおける各種事業の実施や青少年育成活動の先進的取組み等に係る様々な情報について、広報活動を行った。  ① 広報紙「青少年いわて」(各号1,800部、11月、3月) 広報紙「アイナインフォメーション」12回(毎月1回) ② インターネットによる広報( <a href="http://www.aiina.jp/seishounen/">http://www.aiina.jp/seishounen/</a> ) アクセス数：56,197件、情報発信日数：174日、ツイッターフォロワー719名、フェイスブック友達142名(令和3年2月末日現在) ③ 青少年健全育成県民運動啓発用、「いわて家庭の日」啓発用 電子版「いわて家庭の日」各市町村等 12回(毎月1回) ④ 啓発活動 いわて家庭の日・相談室PRカード配布300部 ⑤「わたしの主張岩手県大会」発表文集 780部(配布先：市町村教育委員会、全中学校等) ⑥「いわて希望塾・番外編」事業報告書 1,300部(配布先：市町村教育委員会、参加中学校等)	A(30)	A(30)	A(30)							A(90)	ホームページの内容を充実させ、継続して実施することとしたい。

区分	No.	事業名	目的	事業概要（期日、参加者、内容等）	事業評価				総合評価	今後の事業方針				
					必要性(30)			達成度(30)			効率性(30)			その他(10)
			①必要性・優先度	②県民のニーズ	③代替可能性	①数値目標	②満足度	③周知・理解	①費用対効果	②計画どおりか	③負担はないか			
(4) 相談	8	相談事業  (1) 青少年なやみ相談室の運営	青少年やその家族等が抱える様々な問題等の解決に資するため、青少年及びその家族等からの相談に応じるとともに、青少年活動に関する情報提供を行う。	非常勤の相談員3名により、青少年の悩み、青少年を取り巻く家族等の悩みや青少年活動に関する電話、面接及びメールによる相談を行った。  電話相談、面接相談、メール相談 合計981件（令和3年2月末日現在）  相談時間 9:00～16:00(月・木のみ9:00～20:00)	(事業実施中)				①:10 ②:10 ③:10	①:10 ②:10 ③:10	①:10 ②:10 ③:10			継続して実施することとしたい。 引き続き、相談室の周知のため、中・高校へのPRを行うほか、保護者の需要に対応するため、保護者への積極的な周知を図る。
	(2) 青少年相談事例検討会の開催	県内の関係相談機関における相談事例の検討を行うことにより、相談関係者の指導力の向上及び相談関係機関の連携の推進を図り、青少年の健全な育成に資する。	相談員間の事例に関する情報共有及び事例検討の機会を確保するとともに、相談スキルを向上させるため、他相談機関の相談職員をも対象とした事例検討会を行った。 ○第1回 令和2年11月6日(金) アイーナ8階 812会議室 講演「児童虐待の現状と支援の課題～子どもが健やかに暮らし子育てがしやすい社会づくりのヒント～」 講師：東洋大学ライフデザイン学部 教授 鈴木 崇之 氏 参加者：相談機関の相談関係者等33名(青少年団体、青少年育成団体及び市町村民会議、NPO、幼稚園・小学校教諭等) ○第2回 令和3年2月10日(水) アイーナ5階 501会議室 模擬事例検討(コーディネーター：岩手県立大学教授 三上 邦彦 氏) 参加者：相談機関の相談関係者等11名(岩手県立総合教育センター、県精神保健福祉センター、県福祉総合相談センター、盛岡市少年センター、もりおか若者サポートステーション等)	①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	B(20) ①:0 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	B(80)	継続して実施することとしたい。 実施に当たっては、事例検討による相談対応能力を向上させるほか、相談機関相互の連携を図ることにより相談体制の強化を図る。					
(5) 共催事業	9	いわて県民情報交流センター内の他入居施設との共催事業	いわて県民情報交流センター内の拠点施設と今日的課題に対応した事業連携を図る。	アイーナ運営協議会(毎月1回)、県民活動交流センター長会議(毎月1回)に出席。 共催事業：いわて親子フェスティバル(実行委員会2回・当日の企画運営) アイーナPV撮影(ボランティアの協力、撮影協力) ※県外学生及び医療従事者向けに応援動画撮影協力を行った。	①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	B(20) ①:0 ②:10 ③:10	B(20) ①:10 ②:0 ③:10	C(70)	継続して実施することとしたい。 実施に当たっては、事例検討による相談対応能力を向上させるほか、相談機関相互の連携を図ることにより相談体制の強化を図る。				

区分	No.	事業名	目的	事業概要（期日、参加者、内容等）	事業評価				総合評価	今後の事業方針
					必要性 (30) ①必要性・優先度 ②県民のニーズ ③代替可能性	達成度 (30) ①数値目標 ②満足度 ③周知・理解	効率性 (30) ①費用対効果 ②計画どおりか ③負担はないか	その他 (10)		
(6)自主事業	10	青少年体験講座	調理など家事を手伝う積極性やマナーを学び、他者を思いやる心や協力することを大切さを養う。	青少年等を対象に親子のふれあい、食、マナー等をテーマとする体験講座「親子料理教室」(2月)をアイーナ指定管理者と共催予定としていたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、中止。  (企画変更)アイーナPV撮影(ボランティアの協力、撮影協力) ※県外学生及び医療従事者向けに応援動画撮影協力を行った。 令和3月中旬公開予定	(中止)					コロナ禍でも実施できる方策を検討することとしたい。 県民のニーズに対応した内容により実施する。
	11	青少年ボランティア活動の促進 「こどもの心をつかむわくわくワークショップ」	専門家による実践研修を通じて、豊かなコミュニケーション能力やリーダーシップを養い、子ども・若者への対応能力の向上を図るとともに、若者の主体的活動の促進(ボランティアの育成と活動の活発化の促進)及び将来の青少年育成活動の担い手の育成を図る。	広く子どもとの活動に関心のある方々を対象に、工作やアイスブレイクのポイントを学ぶワークショップを開催。  すぐに活かせる！こどもの心をつかむわくわくワークショップ 令和3年1月31日(日) 北上市文化交流センター さくらホール 参加者:保育士・幼稚園教諭・小学校教諭、ボランティア等 42名 内容:第1部 くぼたまさによるおとなのための研修会 講師:久保田 雅人 氏 第2部 こどもの心をひらくコミュニケーション講座 講師:盛岡大学短期大学部幼児教育科助教 及川 未希生 氏	A(30) ①:10 ②:10 ③:10	A(30) ①:10 ②:10 ③:10  【実績】 42名参加	A(30) ①:10 ②:10 ③:10  人件費を除く費用 (190千円)		A(90)	継続して実施することとしたい。 引き続き、盛岡市以外の地域での事業の開催を検討するほか、ボランティア相互のネットワーク形成など、内容を充実させて実施することとしたい。
	12	国際理解・協力推進事業(国際交流シンポジウム)	国際的視野と国際協調の精神を身につけた青少年を育成する。	内閣府青年国際交流事業の紹介、国際交流事業に参加して感じたことなどを語るフォーラム及び県内青少年との交流会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、中止。  令和3年3月 場 所:岩手大学 内 容:内閣府青年国際交流事業の紹介、グループトーク、交流会	(中止)					コロナ禍でも実施できる方策を検討することとしたい。 県民のニーズに対応した内容により実施する。
	13	災害復興支援事業 復興バザー	東日本大震災の被災者支援及び県民とアイーナの絆づくりを行う。	ボランティアの参加(売り子等)を得て、アイーナ入居の各センター連携事業として実施していたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、中止。  内容:アイーナ4階県民プラザにおいて、アイーナブース(アイーナ職員供出物品の販売)を設置、個人・福祉施設出店、被災地からの出店販売	(中止)					コロナ禍でも実施できる方策を検討することとしたい。